

手話施策推進事業実施状況

施策1 手話の普及と理解の促進				
PR 活動	◎広報にしわき			
	手話啓発記事 掲載			
	目 標	1人でも多くの人に手話に対する関心や親しみを持ってもらう		
	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和元年度事業評価
	●平成30年3月号広報にしわき（全戸配布） ◆特集：手話でつながる	●市役所ロビーでの手話体験コーナーの開催日時掲載	●市役所ロビー（7月よりみらいえ）での手話体験コーナー開催日時掲載	全戸配布の広報等に掲載することで、市民が手話を目にする機会を提供できた。
	●隣保館だより（市内4館：毎月発行） ◆「わんポイント手話」	●隣保館だより（市内4館：毎月発行） ◆「わんポイント手話」	●隣保館だより（市内4館：毎月発行） ◆「わんポイント手話」	
		●西脇市人権教育啓発資料 ◆「ゆきちゃんからのメッセージ」 (全戸配布)	●西脇市人権教育啓発資料 ◆「ゆきちゃんからのメッセージ」 (全戸配布)	
	◎市ホームページ			
	啓発ページ動画作成発信			
	目 標	手話動画を youtubeで見て真似たり、身近に感じてもらう		
平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和元年度事業評価	
●手話施策事業の掲載 ◆手話体験コーナー ◆地域・事業者向け手話講座等のお知らせ	●手話施策事業の掲載 ◆手話体験コーナー ◆地域・事業者向け手話講座等のお知らせ	●手話施策事業の掲載 ◆手話体験コーナー ◆地域・事業者向け手話講座等のお知らせ	気軽に手話にふれる手段であるが、視聴回数が伸び悩んでいる。	
●「西脇手話チャンネル（動画配信）」 ◆第1回西脇市手話動画『あいさつ編』配信 視聴回数 691回（R2年2月現在） 750回（R3年2月現在）	●「西脇手話チャンネル（動画配信）」 ◆第2回西脇市手話動画『接待編』配信 視聴回数 183回（R2年2月現在） 204回（R3年2月現在）	●手話動画の配信 ◆手話体験コーナーPR動画配信 視聴回数 202回（R2年2月現在） 652回（R3年2月現在）		

P R 活動	◎情報発信			
	西脇高校とのコラボ企画			
	目 標	若い世代への関心を広げる		
	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和元年度事業評価
	●西脇高校生による動画内容の編集、作成 手話動画『あいさつ編』作成	●西脇高校生による動画内容の提案、出演 手話動画『接待編』作成	●西脇高校生による動画内容の提案、出演 手話体験コーナーのPR動画作成 西脇高校生の提案を基に、西脇市聴協・手話サークルわかばの協力を得て作成。 撮影・編集は市次世代創生課（映像専門員）が担当。	打合せや撮影等を通じて、生徒が手話や聞こえないことについて理解を深める機会となった。
	手話体験コーナー			
	目 標	1人でも多くの人に手話を体験してみようと思ってもらおう		
	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和元年度事業評価
	●毎月第1・3水曜日 午前10時から2時間 市役所ロビーにて	●毎月第1・3水曜日 午前10時から2時間 市役所ロビーにて 22回実施・延来場者数 75名（6月～3月）	●4月～6月 第1・3水曜日 午前10時から2時間 市役所ロビーにて ●7月～ 第1・3木曜日 午前10時から2時間 みらいえロビーにて 20回実施・延来場者数 75名	来場者数は低調だが、気軽に手話を体験できる場として定着している。 新型コロナウイルス感染拡大により、3月から中止としたため、再開に向けて対策等の検討が必要。

PR 活動	啓発資料作成・配布			
	目 標	1人でも多くの人に手話に対する関心や親しみを持ってもらう		
	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和元年度事業評価
	●手話言語条例パンフレットを作成し、平成30年西脇市成人式において新成人に配布 ●手話啓発クリアファイル作成（3,000枚）	●手話言語条例パンフレットを、平成31年西脇市成人式において新成人に配布 ●手話啓発クリアファイルを市内の全小中学校に配布 ●「ポケ手話」の作成・配布（市職員向け掲示板に掲載）	●手話言語条例パンフレットを、令和2年西脇市成人式において新成人に配布 ●手話言語条例パンフレットを、市民向け手話講座にて配布（約250部） ●ポケ手話シールの作成（2,000枚）	市民が手話を目にする機会を提供できている。 ポケ手話シールを活用する方法を検討する必要がある。
	◎図書館			
	手話図書コーナー設置			
	目 標	1人でも多くの人に手話に対する関心や親しみを持ってもらう		
	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和元年度事業評価
	●図書館入り口に特設展示コーナーを設置 ◆手話に関する書籍（約50冊）を紹介	●図書館入り口：特設展示コーナーを設置 ◆手話に関する書籍（約50冊）を紹介	●図書館入り口：特設展示コーナーを設置 ◆手話に関する書籍（約50冊）を紹介	市民が手話にふれる機会を提供できている。
	手話によるお話し会			
目 標	1人でも多くの人に手話に対する関心や親しみを持ってもらう			
平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和元年度事業評価	
		●手話による読み聞かせ（8/17実施） ろう者2名が手話で絵本を読みきかせ（図書館事業の一環として実施）	子どもが手話や聴覚障害者と関わる機会を提供できた。 図書館職員が手話や聴覚障害者について知る機会となった。	

PR 活動	手話関連図書購入促進			
	目 標	1人でも多くの人に手話に対する関心や親しみを持ってもらう		
	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和元年度事業評価
	●図書館に依頼し、6冊購入 ◆現在の蔵書数 108冊	●図書館に依頼し、11冊購入 ◆現在の蔵書数：119冊	●図書館に依頼し、6冊購入 ◆現在の蔵書数：125冊	市民が手話にふれる機会を提供できている。
	◎手話啓発掲示			
	市本庁舎の手話啓発掲示			
	目 標	1人でも多くの人に手話に対する関心や親しみを持ってもらう		
	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和元年度事業評価
		●手話イラストの掲示 ◆市役所本庁舎の階段、小・中学校等	●手話イラストの掲示 ◆市役所本庁舎の階段、小・中学校等	市民が手話にふれる機会を提供できている。
	講座 研修	◎手話講座		
◆市職員等対象				
朝の手話ワンポイントレッスン				
目 標		手話を使った挨拶や簡単な会話ができる市職員を増やし、市民サービスの向上を図る。 職場リーダーを育てる。		
平成29年度		平成30年度	令和元年度	令和元年度事業評価
●設置通訳者が各課を1週間ごとに巡回し、朝礼時に、主に窓口業務担当課で実施		●設置通訳者が各課を1週間ごとに巡回し、朝礼時に、主に窓口業務担当課で実施	●福祉部で朝礼時に実施 (窓口対応で使える手話を学習)	福祉部職員は、あいさつや簡単な会話ができる程度の手話を習得できた。 他部門での実施方法の検討や職場リーダーの養成が課題である。

講座 研修	職員全員を対象とした手話講座				
	目 標	手話を使った挨拶や簡単な会話ができる市職員を増やし、市民サービスの向上を図る。			
		平成29年度	平成30年度	令和元年度	
		令和元年度事業評価			
	●手話研修の実施	●手話研修の実施	●手話研修の実施	新任職員研修を実施し、新たに職員となった者に、手話や手話言語条例に対する意識付けをすることができた。全職員が日常的に手話にふれることができる体制づくりが課題である。	
	◆4月、参加者 10人（新任職員） ◆6～7月、参加者 245人	◆4月、参加者 10人（新任職員） ◆6～7月、参加者 245人 ◆12月、参加者 35人	◆4月、参加者 13人（新任職員）		
	自主活動の立ち上げ				
	目 標	職場リーダーを育てる。 地域のろう者との交流や仕事に活用する。			
		平成29年度	平成30年度	令和元年度	
		令和元年度事業評価			
●市職員手話サークル	●市職員手話サークル	●市職員手話サークル	自主活動として、職員有志により活動を継続できた。		
◆活動日：第1・3水曜日 正午～30分 （市役所1階ロビー）、第3水曜日 午後6時～30分（マナビータ1階サロン）	◆活動日：第1・3水曜日 正午～30分 （市役所1階ロビー）、第3水曜日 午後6時～30分（マナビータ1階サロン）	◆活動日：第1・3水曜日 午後6時～30分（マナビータ1階サロン）			
手話検定					
	平成29年度	平成30年度	令和元年度		
	令和元年度事業評価				
		●手話検定4級を団体受験（2/9） ◆合格者数 13名	●手話検定3級を団体受験（2/29） ◆受験者数 13名 （市職員6名、その他7名）	地域の手話サークル員も対象としたため、近くで受験ができたと喜ばれた。手話検定に合格することのみが目標とならないよう、取組内容の再評価が必要。	

講座 研修	◆消防署員対象			
	手話研修			
	目 標	手話を使った挨拶や簡単な会話ができる市職員を増やし、市民サービスの向上を図る。		
	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和元年度事業評価
	●調整会議 10/13開催 ◆緊急時の連絡、災害時における 情報発信、支援方法を確認	●職員手話研修を実施（1/15・18開催） ◆受講者 42名	●実施なし	新型コロナウイルス感染拡大により、開催を見送った。 今後の開催について、消防署との調整が必要。
	◆警察署員対象			
	手話研修			
	目 標	手話を使った挨拶や簡単な会話ができる市職員を増やし、市民サービスの向上を図る。		
	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和元年度事業評価
		●職員手話研修を実施（11/27・28、1/31） ◆受講者 71名	●実施なし	日程調整の不調により、実施できなかった。 継続して開催ができるよう、警察署との調整が必要。

講座 研修	◆地域・自治会対象				
	手話講座				
	目 標	1人でも多くの人に手話を体験してみようと思ってもらおう			
	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和元年度事業評価	
	●区長会を通じ、地域での手話講座開催の案内を配付 ◆実施数：8団体 100名	●区長会を通じ、地域での手話講座開催の案内を配付 ◆実施数：15団体 351名	●区長会を通じ、地域での手話講座開催の案内を配付 ◆実施数：2団体 36名	受講者からは、手話や聴覚障害者に対する理解が深まった、手話の本を置いて勉強を続けている、業務に活かしている等の感想が聞かれた。 また、繰り返し受講した人からは、手話に親しみを感じている様子うかがえた。	
	◆企業・事業所等対象				
	手話講座				
	目 標	1人でも多くの人に手話を体験してみようと思ってもらおう			
	平成29年度	平成30年度	令和元年度		
	●商工会議所を通じ、企業向け手話講座の案内を配布 ◆実施数：4事業所 153名	●商工会議所を通じ、企業向け手話講座の案内を配布 ◆実施数：12事業所 206名	●商工会議所を通じ、企業向け手話講座の案内を配布 ◆実施数：3事業所 95名		
	◆高齢者大学対象				
	手話講座				
	目 標	1人でも多くの人に手話を体験してみようと思ってもらおう			
平成29年度	平成30年度	令和元年度			
●高齢者大学 手話ミニ講座 (10/3・12・13) ◆受講者数：延べ150名	●高齢者大学 手話ミニ講座 (7/3・12・13・21、12/4・13・14) ◆受講者数：延べ397名	●高齢者大学 手話ミニ講座 (12/3・12・20) ◆受講者数：延べ168名			

講座 研修	◆こども対象			
	小中高での手話講座			
	目 標	手話であいさつができるまでに		
	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和元年度事業評価
	●福祉学習として実施 ◆小学校 8校 4年生 344人 ◆中学校 1校 2年生 37人 ◆西脇高校 3年生 14人	●福祉学習として実施 ◆小学校 7校 4年生 354人 ◆西脇高校 3年生 15人 ●手話講座として実施 ◆小学校 4校 218名 ◆中学校 1校 48名	●福祉学習として実施 ◆福祉学習として実施 ◆小学校 8校 4年生334人 ◆中学校 1校 1年生26人 ◆西脇高校 3年生 12人	市内の全児童が授業に参加しており、手話や聴覚障害者を身近に感じる機会となっている。 高校では、手話動画の提案など、より深く学ぶ機会となっている。
	聴覚障害児と保護者向けの手話講座			
	目 標	聴覚障害児の交流や保護者の情報交換の機会を設ける。		
	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和元年度事業評価
		●広域で実施されている、聞こえない、聞こえにくい子どもたちと保護者の交流会 「みんなあつまれ！」を紹介	●広域で実施されている、聞こえない、聞こえにくい子どもたちと保護者の交流会 「みんなあつまれ！」を紹介	紹介にとどまっているため、健康課等と連携し、早期から社会福祉課が関わる体制作りが必要。
	夏休みこども手話講座			
目 標	ろう者と交流することで手話に対する理解を深める。			
平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和元年度事業評価	
●小学生を対象に実施（8/22・23） ◆参加者 28名	●小学生を対象に実施（8/18・19） ◆参加者 34名	●ジュニアじんけん教室の一環として小学生を対象に実施（7/28・8/24） ◆参加者 23名（保護者等含む）	人権や手話に関心のある児童が自発的に参加しており、2回連続の講座で学びを深めることができた。 事業担当の人権教育課職員の理解を深めることもできた。	

講座 研修	◆難聴者・中途失聴者対象				
	手話講座				
	目 標	障害のある人となない人とのコミュニケーションの拡大を図る。			
	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和元年度事業評価	
	●「聞こえ」の啓発講座を実施（9/23、10/7） ◆受講人数 11人	●いきいきふれあいサロンにおいて「聞こえ」の啓発講座を実施（1/16） ◆参加者数 12人 （60～80代の高齢者）	地域の高齢者を対象に、聞こえや要約筆記などの支援について講座を行った。参加者を掘り起こすため、地域の行事に相乗りして講座を開くなど、地道な取り組みが必要と考える。		
交流	◎交流の場作り				
	◆地域住民と聴覚障害者・児のふれあい				
	目 標	障害や障害のある人への理解を深め、互いに認め合い相互理解を深める。			
	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和元年度事業評価	
	●田植えやさつまいもの苗植え体験 ◆人権教育課主催の「にしわきジュニアじんけん教室」に参加	●田植えやさつまいもの苗植え体験 ◆人権教育課主催の「にしわきジュニアじんけん教室」に参加 ●「手話カフェ」「講演会」開催事業補助 ◆西脇市聴覚障害者協会主催	●田植えやさつまいもの苗植え体験 ◆人権教育課主催の「にしわきジュニアじんけん教室」に参加 ●「手話カフェ」開催の支援 （郵便局と聴協、手話サークルが主催）	交流を通じて互いの理解を深める場を提供できた。	
	◆聴覚障害者と聴覚障害児のふれあい				
	目 標	聴覚障害者・児との交流やふれあいの機会を増やす。			
平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和元年度事業評価		
	●聴覚障害者協会が開催する行事等を紹介	●聴覚障害者協会が開催する行事等を紹介	紹介にとどまっているため、健康課等と連携し、早期から社会福祉課が関わる体制作りが必要。		

施策2 手話による情報取得及び手話を使いやすい環境づくり				
通訳	◎手話通訳者の配置（福祉事務所内）			
	目 標	行政情報の提供や市民が参加できる会議等において、いつでも手話で意思疎通ができるように努める。		
	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和元年度事業評価
	●平成27年度～：福祉事務所内に1名配置	●平成27年度～：福祉事務所内に1名配置	◆設置通訳者の退職により募集中 (現在は手話通訳のできる職員が兼任)	専任の職員の確保ができなかった。今後も募集を継続する。
	◎手話通訳者派遣			
	目 標	行政情報の提供や市民が参加できる会議等において、いつでも手話で意思疎通ができるように努める。		
	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和元年度事業評価
	●利用実績 ◆利用者 27人、派遣件数 152件	●利用実績 ◆利用者：33名、派遣件数 134件	●利用実績 ◆利用者：27名、派遣件数 102件	市が実施する行事への手話通訳派遣依頼件数は増加しており、必要性が浸透してきている。
	◎ICT（情報通信技術）の導入			
	目 標	行政情報の提供や市民が参加できる会議等において、いつでも手話で意思疎通ができるように努める。		
平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和元年度事業評価	
●導入について検討	●先進事例等の情報収集 ◆三木市の実施状況を調査	●先進事例等の情報収集	情報収集を行ったが、適切な方法が見つからなかった。コロナ禍での遠隔手話通訳など新たな課題も出てきているため、国等の動向も見ながら検討を継続する。	

情報	◎暮らしの中で必要な事の情報提供（広報関係）			
	目 標	聴覚障害者の福祉向上、社会参加、生活支援に努める。		
	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和元年度事業評価
	<ul style="list-style-type: none"> ●市主催のイベント等には、手話通訳者・要約筆記者の派遣を依頼すること、また配慮事項やファックス番号などを明示するよう周知 	<ul style="list-style-type: none"> ●市主催のイベント等には、手話通訳者・要約筆記者の派遣を依頼すること、また配慮事項やファックス番号などを明示するよう周知 ●通報用ファックス用紙（北はりま消防本部用及び警察署用）を聴覚障害の手帳所持者全員に送付 ●西脇市福祉タクシー券を使用できるタクシー会社のうち、ファックスによる予約が可能な事業者の一覧を作成、タクシー券利用者に送付 	<ul style="list-style-type: none"> ●市主催のイベント等には、手話通訳者・要約筆記者の派遣を依頼すること、また配慮事項やファックス番号などを明示するよう周知 ●西脇市福祉タクシー券を使用できるタクシー会社のうち、ファックスによる予約が可能な事業者の一覧を作成、タクシー券利用者に送付 ●簡易筆談器を各避難所施設等に配置（17個） 	担当課により意識の差があるため、引き続き啓発に努める。

施策3 手話通訳者の配置、派遣等意思疎通支援の充実

養成 研修	◎手話奉仕員養成講座の開催				
	目 標	手話通訳者の役割と専門性を十分に認識し、手話通訳者の養成に継続的に取り組み、手話通訳者を確保する。			
		平成29年度	平成30年度	令和元年度	評価
	●入門課程 【実施主体】社協 (9/28～3/1) 全20回 ◆受講者数：24名	●入門課程 【実施主体】社協 (9/12～2/6) 全20回 ◆受講者数：5名	●入門課程 【実施主体】社協 (10/3～2/27) 全20回 ◆受講者数：9名(修了者 6名)	入門課程の翌年に基礎課程を受講する流れができており、継続して手話を学ぶ場を提供できている。奉仕員養成講座修了後に継続して手話を学べる講座の要望があったため、検討が必要。	
	●基礎課程 【実施主体】西脇市 (5/10～9/27) 全20回 ◆受講者数：17名(修了者 10名)	●基礎課程 【実施主体】西脇市 (5/10～9/27) 全20回 ◆受講者数：14名(修了者 8名)	●基礎課程 【実施主体】西脇市 (5/15～10/2) 全20回 ◆受講者数：9名(修了者 6名)		
	◎手話通訳者養成講座の開催				
	目 標	手話通訳者の役割と専門性を十分に認識し、手話通訳者の養成に継続的に取り組み、手話通訳者を確保する。			
		平成29年度	平成30年度	令和元年度	評価
	●ステップアップ講座 【実施主体】西脇市、加東市、多可町 (11/2～3/1) 全5回 ◆受講者数：20名(修了者 17名)	●「通訳Ⅰ」実施 【実施主体】北播磨意思疎通支援協会 (5/10～2/7) 全36回 ◆受講者数：21名(西脇市0名) ●試験対策講座実施 【実施主体】西脇市 (11/20・27) 全2回 ◆受講者数：2名	●「通訳Ⅰ」実施 【実施主体】北播磨意思疎通支援協会 (5/9～2/13) 全36回 ◆受講者数：22名(西脇市3名) ●「通訳Ⅱ」実施 【実施主体】北播磨意思疎通支援協会 (5/9～1/23) 全34回 ◆受講者数：16名(西脇市0名) ●試験対策講座実施 【実施主体】西脇市 (11/1・20) 全2回 ◆受講者数：5名	北播磨5市1町が共同で実施することにより、効率的かつ継続的に養成を行うことができています。	

養成 研修	◎登録手話通訳者現任研修の開催			
	目 標	手話通訳者の役割と専門性を十分に認識し、手話通訳者の養成に継続的に取り組み、手話通訳者を確保する。		
	平成29年度	平成30年度	令和元年度	評価
	●【実施主体】西脇市、加東市、多可町 (6/13～2/20) 全4回 ◆受講者数：10名	●【実施主体】西脇市 (7/20～2/15) 全5回 ◆受講者数：7名	●【実施主体】西脇市 (8/23～3/6) 全4回 ◆受講者数：6名	定期的に研修会を実施することにより、手話通訳者の技術や意識の向上につながっている。
緊急 時支 援	◎緊急時の連絡、派遣体制の構築			
	◎災害時における情報発信、支援方法			
	目 標	聴覚障害者の福祉向上、社会参加、生活支援に努める。		
	平成29年度	平成30年度	令和元年度	評価
●緊急FAX通報説明会及び心肺蘇生法講習会 (11/9)	●聴覚障害者からの緊急ファックス通報説明会及び心肺蘇生法講習会 (1/26)	実施なし	新型コロナウイルス感染拡大により、開催を見送った。今後の開催について、消防署との調整が必要。	
施策4 手話施策推進会議による実施状況の点検				
点検	◎定期的な手話施策推進会議の開催			
	目 標	意見を聴き手話に関する施策を推進する。		
	平成29年度	平成30年度	令和元年度	評価
	●年2回開催 (6/26、12/4)	●年2回開催 (5/30、10/22)	●年2回開催 (6/11、2/5)	市の施策等について意見を聞く貴重な機会となっている。